

「コロナ危機を通して学んでいること・・・」

——ゆりの樹幼稚園の教育（今ここの決断）の確認と事前の備え、不安なドキドキ感がもたらすもの——

園長 高杉美稚子

★ ゆりの樹幼稚園の教育(今ここの決断)の確認 ★

まだまだ続くコロナウイルスの脅威に、先が見通せないもどかしさと緊張感をもって毎日を過ごしています。先が見えない時ほど、今ここの感情と決断を大切に、先を見通した自分の判断を信じるしかありません。



幼児教育の現場に入り42年、園長になり37年、これまでも、数多くの崖っぷちを覗いてきたように思いますが、今回のように先が見えない、ウイルスとの闘いは初めて、そして終息（出来事が完全に終わる）は叶わず、収束（出来事がいったん一定の状態に落ち着く）を経て、共生（with コロナ）の時代に突入しました。

未来に思い煩えば、不安になり、過去にとらわれれば、後悔になる。園児たちの為に、初めての体験（以前に『O157』と対峙したことはありましたが）に少しでも過去の体験で生かせるものは生かし、未来への不安は、今できることは何かを考えてアクションプランを構築し、今ここの感情と決断を大切にすることで受け止め、一つずつ積みあげていくことの大切さを感じています。

後だしジャンケンはいくらでも勝つことはできる。

起こったこと、その時、実施したことを後で非難することは、誰でも、いくらでもできる。だからこそ、先が見通せない時に、今ここの決断をすることは難しい。胃が痛むほど責任も重い。

そして、今の世の中、ネット社会になり、更に加速してきた気がしますが、あとからこうすればよかったのにと何もかも他者責任にして、批判をする人が多くなっているのが、悲しい現象につながって人間関係を悪くしている感じがしています。



報道も様々な情報があふれ、多くの情報の中から何が大切で、どの情報を自分が取舍選択したらいいのかという判断も個々人に投げかけられています。

情報が大量に、しかもすぐ入る時代だからこそ、その情報に振り回されず、自分の感情に気づき、決断する力、自分を受容し、自分の決断を信じる力、誰を、どの情報を信じるかの判断力と他者を受容し、信じ続ける忍耐力、寛容さなどの能力が必要な世の中になってきたと、更に思います。

判断する為の情報を集める力もちろん必要ですが、何が自分にとって必要かを見定める力が、必要です。学ぶ能力と同様、その判断した自分を信じる心、首から上の学習ではなく、おなかの中まで納得する、体感教育が本当に問われている時代です。



情報の時代だからこそ、時にテレビを止め、パソコンやスマホからの知識を切断し、冷静に、自分の力で静かに考える時間が必要になってきました。

今、東洋医学や、ストレス解消の為に深い呼吸、「マインドフルネス」や「瞑想」が、西洋医学の中にも取り入れ始めているのは、このような情報化時代だからこそ必要な時間と取り組みだと感じています。

ゆりのき幼稚園の教育の根本になるのは「感情に気づくこと」です。

自分の感情に気づけば、（自分が今、誰に、何に対して、どのような感情をどのくらい感じているかに気づける）、受け止めることができれば、自分の感情を自分でコントロール出来る、そして、次の自分の行動を変えることができます。冷静に自分を見つめることができます。



最近、周りの人の目が気になる、評価が気になる。人との付き合い方がわからない、などの相談を多く受けるようになりました。人の評価や誉め言葉がないと生きていけない若い人も増えています。

自分軸ではなく、常に、視点が他者に置かれている他人軸で生きてしまっているのですね。

もちろん、日本的な世間体や、他人の目を気にするからこそ調和がとれて暴動なども起こらない、「美德」もたくさんあります。その点も大切にすることは、その程よさの加減が大事です。「中庸を生きること」です。



中庸を生きるためには、感覚の鋭敏性を培うことが大事です。
と同時に、今の時代は、根拠のない批判が多い分「鈍感力」も必要です。
だからこそ感覚を磨く必要があります。感覚を鋭くすることができた人は、同時に、その感覚を鈍感にすることも可能だからです。キャパシティが大きくなった人は自在に自分の感覚を調整する能力も身につくからです。

感情も同様です。自分の感情に気づいた人は、家族の感情に気づくようになり、その後、友だちの感情にも気づけるようになり、「人との程良さのかげんー距離感」を身に付けながら、本当の愛と思いやりを習得します。お友だちの悲しそうな顔を見ただけで、「辛かったね」の一言が言えるようになります。

そして、最終的に、感情に気づくから、その度合いがわかり、自分の感情をコントロールできるようになる、それが本当の大人になるということです。感覚と感情をコントロールできるようになると楽になります。

コロナ離婚をはじめ、最近は何かあるとすぐに感情的になり、声を張り上げる人がマスコミなどの報道でも見受けられますが、それは今、自分のどんな感情に突き動かされてこの行動しているのかさえ気づかない、いえ気づけなくて激昂してしまっているのです。

これは、まだ感情のコントロールができていない幼い子どもの姿と同じです。



ある意味それは、苦しいことです。感情に振り回される間、一番苦しいのは他ならぬ自分だからです。穏やかな時を過ごせるかは、結局自分にかかっているのです。相手の感情に揺さぶられるのは、自分の人生を相手に渡してしまっているのと同じです。これから生きる子どもたちには、嫌な相手の言動にふりまわされて、自分の大事な人生の時間を無駄に過ごしてほしくないと思います。もちろんその葛藤の中で人は成長するのですが・・・

だから感覚を鋭敏にし、感情に気づく教育が大切なのです。

自分の感情に気づいて、自分で決めたことだから、先に決めた行動も変えることもできます。自分が得た情報をもとに、自分がどうしたいのか、どうなりたいのかの目標を明確化し、その為に必要な情報を取捨選択し、誰とどのような状態を得ることが必要か、居心地よいかを熟慮し、リスクとメリットを推し量り、最初の一步を踏み出し、行動変化をする必要があります。それは「ほんの小さな行動変化」でいいのです。とにかく実行してみる。行動変化してみる事が大切です。

これが「ゆりの樹幼稚園の教育理念 10E」であることは、保護者の皆さんはもうご存知です。



その時に、自分の筋、柱となるのは「ゆりの樹幼稚園の目指す人間像」であり、その上にある私の生きる価値（10の価値）でした。

- 1、そこに愛があるか。
- 2、自己受容しているか。
- 3、様々なことに気づいているか。
- 4、人、物事のいいところに焦点を当てているか。
- 5、謙虚であるか。
- 6、正直であるか。
- 7、感謝しているか。
- 8、柔軟性はあるか。
- 9、勇気をもっているか。
- 10、自己決断しているか。

この10項目が私の生きていく価値、指標であり、支えです。

それがゆりの樹幼稚園の子どもたちに育てほしい姿でもあります。

これは数十年前に作った教育理念ですが、新しい教育要領の幼稚園での

子ども達に育てる「10の姿」とほとんど重なっていたことは嬉しいかぎりでもありました。

コロナウイルスのことが表面化した3月から今学期の間、実践してきたことは、まさに上記のゆりの樹幼稚園の教育の再確認でした。





自分の感情に気づき、相手に伝わるように、伝わるまで伝え、共に今できることを
できる範囲で楽しみ、最後まで諦めない、諦めるときは、それも仕方ないと手放した
自分も受容し、過去の後悔から学び、未来の不安を払拭する為に、今できる、
アクションプランを立て、一つずつ積みあげていく毎日、プロセスが大事です。

このコロナ体験の中で、そのような集中的に何事かを行った経験があると、次に大きなピンチや大変な状況に
囲まれたとしても、培ったノウハウが生かせるようになると思います。

「とことん実践すると工夫が身に付く」ある程度、時間をかけて、集中力を持って何事も学び実践する。

それでも時間が足りない、期限に間に合わない、クオリティが望んだところまで達しないことが
あります。その結果、工夫をし、アイデアが閃き、ノウハウが本当に使えるようになるような気がします。

前に読んだ渡部昇一さんが書かれていたことで心に残っていることがあります。

何か一つでも井戸を深く掘った（極めた）経験がある人は、他の分野のことも
イメージがしやすい。なぜなら深く井戸を掘れば、下では水の層がつながっているから・・・
その意味では、このコロナの体験は、今も学び続けさせられている毎日です。
この体験をこれからも次に生かせることが一番大事だと感じています。



また、わずかな差が決定的な差を生むこともあります。人生ではほんのわずかな差が決定的な差になることが
ありますね。一例を挙げると・・・受験などでは、1点の差で合格・不合格が決まり。それで1年間、遠回りする
人もいれば、波に乗る人もいますね。人との出会いでも、共通の話題がたまたまあったため生涯の友となり、
そこから運が開けていった、なんてことも多々ありますね。今日、角度を1度だけ上向ける（行動を変える行動変化）
だけで、未来はまったく変わってきます。

私にとっては脳外科手術を受けた15歳の時、父の急死で園長になった27歳の時、港幼稚園を閉園した
38歳の時、狭心症でカテーテル検査を受けた47歳の時、玄海ゆりの樹幼稚園を始めた50歳の時。



辛い出来事が多かったですが、アクシデントや失敗の中で学んで成長したことは、
私にとって、今では宝物です。そのわずかな変化が、当時と比べたら想像もできないほど
幸せに生きる学びにつながっているのは間違いありません。

これからもこのコロナの体験も含めて過去に学んだことを大切に、失敗を恐れず、失敗を
学びに変えて、歩んでいきたいと思います。

このコロナの状況の中、一つ安堵したことは、これまで取り組んできた物的環境です。

コロナのことを考えたわけではなく、園児と職員の健康を考えて取り組んできた「エコの園舎」をはじめとする
様々な取り組みが功を奏しているのではないかということです。
図らずもそれが事前の備えにつながっている気がしています。

★ 事前の備え ★

「情けは人の為ならず」という言葉がありますが、今、若い人に聞くとこの意味は
「なさをかけることはその人と為にはならない」と、解釈している方もいるようです。
もちろん多くの方はご理解いただいている事と思いますが、本当の意味は

「情けをかけるとは、相手の為ではなく、最後にはすべて自分にかえってくる、
情けは人の為ではない、巡り巡って自分の徳につながる、自分が成長するためにある」
という意味です。



これは、過去のいろいろな場面でも感じてきました。過去の巻頭言にも書いてありますが、父、母、そして、
発達が心配で、我が家で私と共に兄弟のように育った叔父の看取りの場面でも後になって感謝することばかりでした。
世話をしているつもりで、世話をされているのは自分でした。しっかり見取りをすることで、心が休まるのは、
残された家族なのでした。



知的に障害のある叔父の亡くなった時の顔はまるで修行僧のような、凛として、素晴らしい顔でした。一生が修行だったのだなあと思います。また姉である母の後を追うかのように3カ月後になくなりましたので、母が連れていったのだなと感じておりましたが、後になって思うのは、母を見送ったから、自分の役目は終わったと旅立ったのだと今は思います。父が亡くなってからの30年、叔父の世話をすることが母の生きがいになり、叔父のことが心配で先には死ねないと、長生きしたのでから・・・

人は、世話をしているようで、世話をしている人と思っている人に世話をされ、助けられているのかもしれませんが、「子育ては親育て」の話にも通じるものですね。

「全てはどんな時も物事の両面を常に同時に見る力が必要」です。

断る力が弱かった私は、受け入れて、受け入れて、これ以上受け入れられないところまで来たときに、もうこれ以上は無理です、と断る力が付きました。

そしてマイナスなことがプラスに転じる、いえマイナスと思っていたことこそがプラスだった、その人の良いところだったということはたくさんあります。自分の情けないところ「臆病、怖がり」は慎重であるなど見方を変え、物事はいつも、その両面を見ることができれば、そして、家族をはじめ他者にも両面を見てあげることができれば、自分にも人にも優しくなれます。

「どのような人の行動にも肯定的意図—そうぜざるを得ない意味—がある」のです。

例えば、バスの中で、不機嫌な人の隣の席に座るのが嫌だと思った時、この方は今、ご家族が大変で病院に向かうときかもしれない、何か失敗して落ち込んだ後かもしれないとこちらが思うだけでも優しくなれることもあります。

皆、何らかの事情を抱えて毎日、必死に生きているからです。そのことを分かろうとしただけで、自分の気持ちが楽になりますね。自分の見方と捉え方をどう変えるかですね。



そして私が15歳の時大病をし、父母の会話を偶然聞き、「この子が15歳で死ぬのではなく15年間この子の父母でいられた事に感謝して生きよう」といった父の言葉が私のポジティブシンキングの元になりました。

後3カ月の命かもしれないと知った時に真剣に健康のことを考える様になりました。それは、今の園舎建築に生かされています。



父は私が27歳の時に亡くなりましたが、その当時は、その役職の重さに、なんでこのような体験を私にと、苦しく情けなかったのですが、今になって思えば、失敗とその情けない体験があるからこそ、学び続ける原動力となりました。



自分がアトピーであったことも今の給食につながりました。また、元来怖がりの私は、入り口には防犯カメラを付け、それから入園案内でご承知のとおり、園児の健康の為にいろいろと取り入れてきました。

エアータオル、マザーウオーター、プラズマクラスター、ジアイーノなど、その当時、インフルエンザで辛い思いをする園児を減らしたいとの思いでした。

今回、次亜塩素酸水精製器を昨年度早く取り付けたのも、良かったと思います。

そのことが、今回のコロナウイルスにも役に立ったと思います。

情けは人の為ならず、園児達に、職員にとって最も健康で過ごしやすい空間をと考えてきた日々は、今回、コロナ対応をするために必要な前準備となりました。

今学期、休園や分散登園、行事の変更など、与儀なくされたことが多くあり、保護者の皆様には、多くのご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。まだまだ、コロナウイルスも予断を許さない状況ですが、これからも、園児たちの20年先を見つめ、「情けは人の為ならず」の精神で、しっかり準備し、自粛の期間に学んだこと、気づいたことを大切に、当たり前前に過ごせる毎日に感謝して、一日一日を大切に生きていきたいと考えています。

